

ウク・ライナー

C・O・S・M・O・S
番外編

照
伝
光

前書

前書

なぜ人類は戦争を好むのか。やむを得ない性なのか。

いったい人類とは？ いや生命とは何なのだろうか。無限に広い宇宙において生命体が生まれ進化するが、絶えず生き残りをかけた戦いを繰り返しているように見える。戦いが悪なら生命体はなぜ生まれたのか。

この宇宙の根源を「トリプル・テン」という不思議な意思を持つ物質だと気付いた者がいた。ノロという男だ。そしてノロとともに歩むイリという女だ。

この二人を中心とした拙著「トリプル・テンⅠ」「トリプル・テンⅡ」「トリプル・テンⅢ」という三部作、そして超長編物語の「C・OS・M・OSシリーズ」の五部作を展開したが、ここで改めて番外編として「ウク・ライナー」を書くことにした。

いきなり「番外編」だと言っても前述の物語と無縁ではないのでこの「ウク・ライナー」を読むに当たって参考になる「トリプル・テンⅠ、Ⅱ」のあらすじを掲げることにした。ある意味「ウク・ライナー」は「トリプル・テンⅠ、Ⅱ」の続編といえるかもしれない。壮大で無限の世界に踏み出す奇想天外な二人の冒険物語をお楽しみください。

主な登場人物等

ノロ

宇宙に飛び出してノロの惑星の改良にかかる人類始まって以来の間が抜けた大天才。ノロの方舟で地球の生物をこの惑星に移動させて第二の地球を作ろうとする。

イリ

イリ族の女王。グレーデッドの総統としてノロの惑星の改造を手助けする。

榊 司郎

サブマリナー〇一〇一〇の艦長。宇宙海賊としてノロを支える。

加藤

元原子力発電所の所長。被爆したがグレーデッドに助けられたのちノロと知り合って信奉者になる。加藤ハヤブサ戦闘隊長。

時空間移動装置

の。
ノロが開発した直径三メートルから五メートルほどの球体で小型のタイムマシンのようなもの。

「トリプル・テンⅠ、Ⅱ」のあらすじ

「トリプル・テンⅠ、Ⅱ」のあらすじ

メキシコ湾の最深部から宇宙の根源物質トリプル・テンをサブマリン八〇八が回収すると、開いた穴に海水が流れ込んで海面が下降する。陸地が広がり海上輸送が困難になって世界中が大混乱する。

一方、地下から噴き上がった海水で砂漠が湖化して周辺が肥沃な土地に生まれ変わると大穀倉地帯になる。たとえばタクラマカン砂漠は広大な湖となって砂漠の村だったイリ村は農作物が豊富に収穫できるようになった。

島国の領土が広がって資源国となり逆に産油国は衰退するなど地形や環境や国家の力関係が様変わりする。この急変に国連は実務総長に就任した日本人の鈴木と中国人のチェンが対応しようとするが各国の思惑の調整がうまくいかない。

トリプル・テンをまとったサブマリン八〇八は透明な宇宙船に変身するが乗組員の水や食料がままならず、魚雷や弾薬が底をつく。女王イリの援助を受けて混乱した地球を何とかしようとノロが奔走する。

一方混乱に乗じて核武装テロ集団グレーデッドが国連を占拠して世界征服を企てる。サブマリン八〇八のスポンサーで武器マニアのスマスが水上戦闘機彗星でニューヨークを脱出してサ

ブマリン八〇八に合流する。

グレーデッドは中国の人民解放軍を洗脳してイリ村を占領するがサブマリン八〇八が奪回する。グレーデッド総統率いる潜水空母ビッグデッドが立ち塞がり苦戦するが、榊艦長やスミスの活躍でノロたちは逆転勝利する。しかし、サブマリン八〇八は沈没する。

ノロはグレーデッド総統代行の加藤に助けられてイリ村にたどり着く。復活したサブマリン八八八の後を追ってイリ村に来た加藤に懇願されてイリが総統に就任してグレーデッドを平和的な組織に改造する。

ノロはグレーデッドの技術力を使ってマイクロウェーブを地球に送る宇宙ステーションを建造して電気を自由に使えるようにした。そしてトリプル・テンを使って核兵器や原子力艦船の処分や原発の原子炉の廃炉をする。これらの功績にも関わらず大国の権力者などがトリプル・テンを手に入れようと策を巡らす。

ノロは人間の限らない欲望に嫌気をさしてグレーデッドの基地を地球から月に移して宇宙戦闘機ハヤブサ、宇宙戦艦、時空間移動装置を次々と製造して宇宙に打って出る準備をする。

トリプル・テンを狙う国籍不明のしかも複数のテロ集団にイリ村が攻撃を受ける。加藤ハヤブサ戦闘隊とサブマリン八八八の活躍で何とか凌ぐとノロは月基地も放棄して宇宙に出る。